2023年度　日本造園学会全国大会報告

造園の魅力
ー社会から必要とされる造園産業界の仕事とはー

1．趣旨

「造園の魅力」の第３弾として，造園施工業界・設計業界・施設業界・大学のそれぞれの視点から，造園産業界の現状がどのように見えているのか，そして，造園力を高め他の業種（産業）とも手を組み広範かつ具体的な社会的ニーズを満たすためにどのように高付加価値化できるのか，前向きに議論するために開催した。

2．話題提供

司会の廣部修平（㈱南香園，（一社）日本造園建設業協会地域リーダーズ）の開催挨拶と趣旨説明の後，コーディネーターの酒井一江（㈱淡窓庵，（一社）日本造園建設業協会女性活躍推進部会）により進行。各話題提供者により，自己紹介と「これも造園？」という事例を紹介。

大塚広夫（㈱雲松園，（一社）日本造園建設業協会地域リーダーズ）

山梨で造園建設業の他に農業法人を経営。造園の仕事では公共や個人が相手だが，農業では地域連携や福祉とも連携し社会にも貢献できる。今回の学会全国大会の発表でも農に関わる内容も多く，地方の課題解決策の一つであると実感した。

地方は，人口が少ないがみんなが知り合いでネットワークを作りやすく，都会に比べすそ野を広げられるため，色々な可能性がある。また，植物を扱う柔らかいイメージのある造園は，地域でリーダーシップを取りやすい。造園が持っている要素と地域活性化の相性が合うと実感している。

造園に携わる人が，地域で声をあげ，スタートを切る役割を担っていただけたら良い。

大橋尚美（（株）戸田芳樹風景計画，全国女性造園技術者の会）

東京の設計事務所で，ランドスケープ×園芸＝フラワーランドスケープという仕事に従事。横浜市の３年間のプロポーザルで緑地の管理とアドバイザーを行っている。

日本大通りの街路樹や赤レンガ倉庫の港湾緑地により，魅力的な街ができている。これは，計画した目標について，役所の人達と歩きながら評価・検証し，実現していることが，若い技術者の気づきの場となり，技術者の育成にもつながっている。このような仕事の手法は，人が育成でき，関係する仲間とのつながりもできるのが魅力である。

また，全国都市緑化よこはまフェア（2017年）の成果を継承し，花と緑の文化を発信するため「里山ガーデンフェスタ」を春秋の年２回開催。横浜産の花を植えることにしており，花農家の生産計画，造園の人が花を，花の人が樹木を知るきっかけになった。熟知した人が教えることで関係者の連携が生まれた。このように街の中で，花と人の連携，技術の高質化が自然にできている。

来場者の喜ぶ声に刺激を受け，生産に活かし，さらに仕事の励みになっている。花の世界を，造園･農業･園芸の三位一体でできることは幸せである。

内田拓秀（内田工業㈱，（一社）日本公園施設業協会）

愛知県の公園遊具･施設メーカー。バリアフリーは目的地に到達できること，ユニバーサルデザインは目的に沿った物かどうか，インクルーシブはすべての人が利用できる公園や空間のことである。ベンチの幅一つとっても，暮らしのスケール，利用者目線で考える必要がある。

子供のころの経験を活かし，自然の中で遊んだことを，公園の中の遊具でも同様に遊べるように，これからの子供の成長を助け，経験ができる遊具を作っていきたい。

金岡省吾（熊本大学，（公社）日本造園学会）

大学で地方創生を社会人，大学生，高校生に教え，学会では財務経営を担当。公園×○○として，×イタリア料理や×サッカー教室などで公園が活性化している事例がある。

最近は地方創生に興味ある学生も多く，アイデアを持った良い人材も集まりやすい。NTT や吉本興業など大企業も地方創生というキーワードでボランティアでなくCSVとして地域課題解決の活動を仕事に繋げている。すなわち，社会に必要とされる公園を提案できることが大切であり，造園･地方創生を通じて，造園業界以外の人々もWIN になる考えを持っていただきたい。

地方に魅力がないと，都会に出た若者が地方に戻ってこない。稼ぐ地域づくりが，その地方で活躍したいという若者の意識変化を引き起こし，地方創生につながる。

そうすると「造園」を事業主体にするのではなく，利用者に求められる活動やしくみ(ソフトやサービス)を活用した事業を主体にしたほうが上手くいくことが多い。

3．意見交換

造園業界としては，そもそもサービス業であることを根底に，現状の地域課題を深掘りして，そこに活かせる自社の得意分野や実現可能で魅力的なアイデアなど，地域が求める多様性のある仕事を例えば公園運営等に活かしたい。そのためには，行政と業界がコミットするだけでなく，子育て，教育や福祉，農業の分野との連携も望まれる。

「これも造園？」という事例では，漁業や観光農園，牧場，会社の敷地を地域の憩いの場として事業展開をしている会社もある。自分の遊び心がどこにあるか，自社の持っている技術をふり返り，造園の魅力を広く伝えていきたい。

企画責任者：松戸　克浩
((一社)日本造園建設業協会 地域リーダーズ総リーダー)

ミニフォーラム 造園の魅力　発表者たち

ミニフォーラム会場

日本造園学会全国大会会場（南九州大学）

アミノバイタルトレーニングセンター宮崎視察